

人それぞれ

先日、テレビドラマで子どもがおねしょをして「やっちゃったあ」とうなだれている場面がありました。大学生の息子と観ていたのですが、その時、息子のおねしょが中学生まで続いていたことを思い出して、

「今さらやけど、おねしょがいつまでも治らなかったこと憶えてる？」と、尋ねてみました。

息子がまだ幼い頃は、おねしょがあっても、「この年齢ならあることだから、いずれやむだろう」と思っていました。ところが、小学校高学年になってもおねしょがやみません。次男はすでにおねしょをしていなかったことから、私は心配になって病院に連れて行きました。医師からは「おねしょがやむ年齢は人それぞれですから心配しなくてもいいですよ。」と言われました。確かに「人それぞれ」と頭の中ではわかっているのですが、いざ我が子となると「この年齢だと早く治さないと」という思いが募り、薬を処方してもらいました。さらに「アラーム療法」ということで、おねしょをするとセンサーが反応して音で知らせてくれる機器も使うことにしました。

深夜、「ピピピ・・・」と機器が鳴りましたが、息子は全くアラーム音に気づきません。その後もおねしょがあり、治療の効果がわかりません。私も妻も不安と焦りがより高まっていきました。しかし、おねしょのことで息子を注意したところで治るわけでもないの、「叱らない、過度に励まさない」ようにしました。フローティングスクールや修学旅行での宿泊に際しては随分心配し、参加させるかどうか悩みましたが、担任の先生に息子の状況を伝えて参加させることにしました。結局、宿泊ではおねしょをせず、私は安堵しましたが、なぜか息子は特に気にしていない様子でした。

その後も、息子のおねしょは続きましたが、そのうち、濡らした下着などは自分で風呂場で洗ってから洗濯機に入れるようになりました。中学2年生になり、身長がぐんと伸びるとともに、自然とおねしょはやみました。

「うーん、確かにおねしょ続いたな。」

「ところで、おねしょしても、わりに平然としてたよね。」

「本当は、自分では情けない気持ちで一杯やったけど、お父さんもお母さんも特にさわぎたてたりしなかったやろ。おねしょのたびに叱られてたら、心折れてたわ。心配してたと思うけど、穏やかに接してくれたから、自分もあまり深刻にはならなかったのかな。」

息子はそう言ってくれましたが、穏やかに接する裏では、心の葛藤がよく生じていたことを思い出しました。あの頃は「この年齢だったら、これができるはず」という固定観念があり、医師の「人それぞれ」という言葉を受け止められずにいました。でも、息子が自分なりにおねしょと付き合っている様子を見ているうちに、私の心も穏やかになり、「人それぞれ」を受け止められるようになっていったと思います。

私は、「こうあるべき」という基準で物事を決めつけてしまい、現実との「ズレ」で悩んだり落ち込んだりすることがあります。今回息子とおねしょの思い出話をするなかで、「人それぞれ」という言葉を思い出し、もう少しおおらかに生きていこうかなと思っています。